

[スピードスケート] 真駒内選抜

今野1500メートル初優勝

真駒内選抜スピードスケート競技会が11月30日から12月2日まで、北海道立真駒内屋外競技場で開催され、男子1500メートルで今野陽太(経営3・白樺学園高)が1分55秒29で初優勝を遂げた。

「得意な距離ではなかったのですが、優勝には驚いています。この結果は監督、部長の指導や、家族、友達をサポートがあつてこそなので、感謝しています。次の大会も良い成績を残せるように頑張ります」と語った。

その他の上位入賞者は次の通り。

【同3000メートル】佐山敏幸(経営2・池田高)＝2位

【同5000メートル】道下雅史(経営3・白樺学園高)＝2位

【同1万メートル】道下＝2位



▲今野の力強いスケーティング

[卓球] 全日本学生選抜

女子 高が準優勝 杉本はベスト8入り

全日本学生選抜卓球選手権が12月2、3の両日、横浜文化体育館で行われ、女子の部で高瑜瑤(商1・秀光中等教育学校)が準優勝を果たした。

決勝ではフルセットの末、惜しくも敗れ、「接戦を落としてしまい、悔しい」と話すが高瑜瑤は、「今回の準優勝で“本場”中国からの留学生として、結果を残さなければならないというプレッシャーを吹き飛ばせた」と語った。

なお、専大からは高を含め4人が出場し、杉本枝穂(文3・青森山田高)がベスト8入りした。

(馬場 雄也・ネット情報1)

[サッカー] 関東大学リーグ<2部>

来季1部へ復帰 荒田が得点王、新人賞に藤本

関東大学サッカーリーグ(2部)で専大は14勝5敗3分・勝ち点45で2位となり、入れ替え戦なし(自動昇格)で1部復帰を果たした。

個人では荒田智之主将(商4・清水東高)が得点王、藤本修司(法1・駿台学園高)が新人賞に。DF渡部博文(経済2・山形中央高)、MF野村直幸(法4・前橋商高)、FW荒田の3人がベストイレブンに選出された。

首位と同じ勝ち点で迎えた最終節拓大戦。拓大グラウンドでのアウェーゲームは、ボールの走らない芝に苦戦し、1―3で敗れ、惜しくも優勝を逃した。荒田主将は「悔しいが、昇格できてよかった。後輩たちには、1部で頑張ってもらいたい」と話し、源平貴久監督は「コンビネーション不足で序盤は苦しんだが、上級生が個人技で引っ張ってくれた。来季は抜けた得点源をどうカバーするかがカギ」と語った。

(馬場 雄也・ネット情報1)

リーグ戦結果

◆アイスホッケー部

▽関東大学リーグ戦(9月23日～12月2日、ダイードリンコアイスアリーナ)最終順位=7位

◆アメリカンフットボール部

▽関東大学リーグ戦(9月1日～11月23日、アミノバイタルフィールドほか)3勝4敗=5位

◆ラグビー部

▽関東大学リーグ戦(2部=9月23日～11月25日、国士館大グラウンドほか)4勝3敗=4位

◀人 Zoom UP▶

ボクシング部 川内 将嗣(かわち まさつぐ・商4)

国内では敵なし 五輪でメダル狙う

1985年11月25日生まれ／佐賀県出身／龍谷高／身長178cm
／105戦98勝(66RSC)7敗／ボクシングスタイル＝右利きの左ボクサースタイル



「自分からボクシングを取ったら何もない」。そう言い切るほどにアマチュアボクシングに打ち込み、国内ではすでに敵なし。国体、全日本選手権のライトウェルター級で2年連続の優勝(2年次はウェルター級で2冠)。10月の世界選手権では3位となり、日本人史上2人目のメダル獲得を成し遂げ、北京五輪出場を決めた。

ボクシングを始めたのは高校入学時。家の近所にジムがあることを知り、友人に誘われた。小学校3年から中学卒業まで父親の影響で剣道をしてきたが、新しいことに挑戦したいという気持ちもあった。「中途半端は嫌い」との言葉通り、懸命に練習し、独特のスタイルを作り上げ、高校3年の時にはライト級で高校選抜、総体、国体を制し、3冠を達成。専大に入学してからの活躍は前述した通りである。

小坂則夫コーチは「自分にも他人にも厳しい。相手との間合いの取り方、距離感、スピードがすごい。まだ足りないところもあるが、それは本人がよくわかっていると思う」と高く評価する。

「北京五輪出場に対するプレッシャーは感じていない」と言う。ただ、「実力はまだ足りない。世界選手権は半分くらいが運でメダルを取ったようなもの。五輪では実力でメダルを取りたい」と話し、「実戦の機会が少ないのが少し不安。スパarringの量を増やし、本番に備えたい」と語る。

五輪を最優先に考え、卒業後の進路は未定。プロ転向については、「興行性の強いプロより、純粋な技術勝負のアマチュアが好きでどっぷり浸かっているので、今は全然考えていない」そうだ。

強いリーダーシップで主将として部を引っ張ってきた。「強くなることは不可能ではないと自分が証明した。後輩たちにはあきらめずに常に上を狙って頑張ってもらいたい」とエールを送る。その言葉は実に頼もしかった。

(新海 城生・経済3)

専大松戸高野球部 監督に持丸氏就任

今夏まで、常総学院(茨城県)の野球部監督を務めていた持丸修一氏＝写真＝が、12月1日付で専大松戸高校の監督に就任、指導を開始している。

専大松戸高校は、09年に創立50周年を迎え、文武両道にさらに力を入れる方針で、野球部強化と人間教育の両面を指導できる人材として、持丸氏を招聘(しょうへい)したもの。

茨城県立竜ヶ崎一高で選手として1966年夏の甲子園に出場。母校と県立藤代高を春夏計4回甲子園に導き、常総学院でも3回出場を果たしたベテランの手腕に期待がかかる。

水球ジュニア「専大カップ」開催

専大カップ神奈川県ジュニア選手権水球競技大会が11月23日から3日間、生田キャンパスの総合体育館プールで行われた。写真。

